

第63回 全九州広告美術コンクール

審査講評

2021.9.10

沖縄県立芸術大学 デザイン専攻 教授 赤嶺雅

審査にあたって

事前審査：令和3年9月3日（金） 午前10時までに優秀な作品50点を選出し採点

審査日：令和3年9月3日（金） 午後2時より3時30分（約1時間30分）

審査場所：ZOOMによるオンライン開催

作品総点数：153点

審査員：沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 教授／赤嶺 雅氏（委員長）

国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 景観・歴史文化環境整備室 企画専門官／下平 弘和氏

おきなわ女性財団 常務理事／上與那原 美和子氏

沖縄県広告美術技能士会 会長／神谷 正昭氏

開催目的：技能の向上意欲を高め、業界における技能水準の向上を図り、都市景観の形成、地域社会の活性化に寄与し、業界に対する社会的評価の高揚に資することを目的とする。

趣旨：女性や子供に対する暴力防止への深い理解と関心を広げ、「あなたはひとりではないよ」というメッセージを伝えるため、パープルリボン&オレンジリボンの周知・啓発を行う。

審査基準と選定：審査基準に則り、審査員4人が一点一点を「制作要領」や専門的視点から採点し、総合得点や協議により順位を決定。

## 全九州広告美術コンクール 審査基準（沖縄県広告美術コンクールの審査基準を運用）

**一次審査：事務局による選定（制作要領規定） 対象外作品：36点**

※下記の3点について不備がある作品は審査対象外とする。

- ① 作品のテーマ及び制作要領の「メインテーマ」及び「第63回全九州広告美術コンクール作品」の記載があるか。
- ② 作品仕様及び表示について指示されたサイズ、素材、仕上げなどの規定を守っているか。
- ③ 作品内の記載文字が間違っていないか。

**二次審査：寄贈先による選定（適切な表現） 落選作品：0点**

※下記の2点について適切ではない作品は落選とする。

- ① 作品のテーマ及び制作要領の「趣旨」及び「留意点」を適切に表現しているか。
- ② 「評語」に対してのズレた表現となっていないか。（誤解を招く表現）

**三次審査：審査委員による選定（意識啓発に繋がるメッセージ性）**

※審査作品：117点から優秀と思われる作品50点に点数を記載  
（作品が多いため点数を絞り採点）

※下記の5点について明確である作品を賞候補とする。

- ① **メッセージ力**：テーマに沿った意識啓発に繋がるメッセージ性があるか。
  - 作品のテーマ及び制作要領の「趣旨」を理解し「留意点」が明確。
- ② **表現力**：効果的なイメージに表現された作品であるか。
  - 画像・イラストなどを利用し配色や表現力がある。
- ③ **構成力**：全体の配置（レイアウト）で分かりやすく見やすいか。
  - 書体、イラスト、画像など全体のバランスが良い。
- ④ **目的性**：屋外での一定の距離を持って認識しやすい広告物か。
  - 一瞬で理解できる情報で、情報過多にならないように整理されている。
- ⑤ **技術力（事務局にて採点し合算）**：素材や施工及び表現手法を確認。

※審査委員は4つの採点基準（メッセージ力、表現力、構成力、目的性）に対し、最高得点を10点とし、記載後に技術力の点数を合算し集計、得票が多い作品を入賞作品とする。但し、同票の場合は審査委員にて審議し順位を決定する。



## 国土交通大臣賞

作品：149

氏名：石内 希 (いしうち のぞみ)

会社：(株)ブンカ巧芸社 / 鹿児島県

### 講評

この作品は、伝えたい必要最小限の要素と、優しく暖かいモチーフで惹きつけるデザインとして制作している。

造形作品としての出品で、背景色の白色は連想として清らかなイメージがあり、注視させたい色彩であるパープルとオレンジが浮き出るデザインである。優しく寄り添うイメージである花をモチーフとし、手書きの要素としてのイラストは暖かさを感じ、今回の公募意図である周知・啓発に沿ったデザインとなっている。レイアウトもリボンを枠の中に収めず端を切り取る事により、広がりを感じさせることを狙いとして表現していることが良い。散りばめられた花など、作者のバランス感覚の良さが垣間見れる。

今回の応募作品の中で表現力が優れており「国土交通大臣賞」に値する、優秀な作品として受賞した。

総合得点：123点



## 九州広告美術業組合連合会会長賞

作品：16

氏名：中島 隆二（なかじま りゅうじ）

会社：(株)新星社／福岡県

### 講評

この作品は、女性や子供を花に置き換え優しさを前面に出し寄り添うイメージで制作した作品である。

今回のテーマは深刻な内容であるが、花を活用することで包み込むような柔らかい表現が可能である。背景色に水色を使用することで色からの抽象的連想として希望や平和とも読み取れる。さらに、モチーフが浮き出るよう計算され、白抜き文字は優しく添えているイメージが良い。配置バランスも素晴らしく、右下からの優しく添える手の配置なども計算され、作者の狙いが見える。

バランスの取れた構成で、「九州広告美術業組合連合会会長賞」に値する優れた看板として受賞した。

総合得点：116点



## (一社)日本屋外広告業団体連合会会長賞

作品：79

氏名：與儀 美南子(よぎ みなこ)

会社：(株)琉球コスモセブン／沖縄県

### 講評

この作品は、今回のテーマである「ひとりではない」ことのメッセージが明確に打ち出されている。

全体を柔らかいピンクにすることで幸福なイメージに繋がり、包み込む優しさを表現していると感じた。また、支え合う表現を、四隅にいる笑顔の人々と繋がるデザインがメッセージ力にもなっている。センターのイラストはアナログ的表現で優しさの何物でもない。作者はそれを狙って表現しているのがよくわかる。構図的にはセンター合わせでの配置で動きはないがバランスのとれた作品となっている。

優しさに溢れた表現で「(一社)日本屋外広告業団体連合会会長賞」に値する優れた看板として受賞した。

総合得点：114点



## (公財)おきなわ女性財団理事長賞

作品：151

氏名：宮良 慎弥 (みやら しんや)

会社：(株)琉球広報 / 沖縄県

### 講評

この作品は、テーマとしての重いイメージを乗り越えた後の暖かいデザインとして制作されている。

全体を明るく表現し、背景色の黄色は活発で注視する色彩でもあるため、情報を伝えるのは効果的と考え活用したと推測する。屋外広告物として少し情報量が多い気がするが、今回のテーマとしての周知・啓発に繋がる良いデザインである。独自のハートのイラストに動きを与え、見守り繋げるデザインは効果的で、作者はそれを計算しての配置と考える。ハートを少し左に傾けているバランスの取り方はとても良い。動きのある書体も連動している。

優しさと表現力の高さで「(公財)おきなわ女性財団理事長賞」に値する優れた看板として受賞した。

総合得点：112点

## 総評

前年度からの新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今年度開催のお話を受け内心不安ではあったが、厳しい状況の中で多くの優れた作品に出会えた事は、感無量である。また、広告美術コンクールとして、初めてのオンライン開催でもあり、立看板142点、造形看板11点、合計153点の作品が集まった事は組合の出品企業に対し心から感謝申し上げたい。さて、作品出品に敬意を込め、審査の経過を記載する。

まず、一次審査として事務局により制作要領において不備がある作品は審査対象外となる。今回は36点の対象外となる作品があった。(作品サイズの対象外1点、文字サイズの対象外32点、加工による対象外1点、誤字による対象外2点)

二次審査では、イメージによって誤解を与えかねない場合があるため、寄贈先である(公財)おきなわ女性財団の常務理事の上與那原氏による選定を行った。今回は落選に該当する作品はなかった。

3次審査では、コロナの影響により集会審査ができず、事前に頂いた画像による採点となり、優秀な作品50点に得点を付け事務局に報告した。採点はメッセージ力、表現力、構成力、目的性の4項目。審査は委員である国土交通省の下平氏、(公財)おきなわ女性財団の上與那原氏そして私の3名で行なった。技術力については、沖縄県広告美術技能士会の神谷氏にて対応、審査委員一人ひとりが要項及び審査基準を確認し、客観的に採点を行なっている。例年であれば目の前で実寸の作品を確認し採点。その後、意見を交わしながらの審査であったが、それは叶わなかった。

最終審査はZOOMによるリモートで開催された。沖縄県広告美術協同組合の永吉氏の進行で、九州広告美術業組合連合会会長の波田氏からの挨拶やコンクールの経緯、審査についての重要なお話もあり、気を引き締めて審査に臨んだ。4名の審査得票を事務局にて事前に集計し、総合得点として確認した。その後、各委員からテーマに対しての思いや審査経緯などを確認した。更に、順位に関する意見も確認した。審議の結果、総合得点での順位とし、満場一致で受賞作品を決定した。

今回の審査で感じることは、現状として仕方ない事だが実物での審査ではなく画像としての審査は難しかった。実際の作品は原寸での設置によるメッセージの伝達であり、審査におけるモニター上での画像の拡大縮小ではサイズ感やバランスが掴みにくい。審査委員はかなり苦労したかと思われるが、公正な審議結果の受賞となる。国土交通省の下平氏、(公財)おきなわ女性財団の上與那原氏に感謝を伝えたい。ただ、一次審査で審査対象外となった作品が36点もあり、良い作品もあったと思われるが、審査対象外では意味がない。改善を望む。

広告看板はグラフィックデザインであり、6つの表現要素があると考えます。1.手法的特徴(写真やイラストなどの効果)、2.文字(書体選定や文字間)、3.色彩(色の効果やイメージ)、4.レイアウト(配置バランスによる効果)、5.素材(目的による材料選定)や6.形態(目的によるサイズ選定)、今回の5.6は作品仕様に合わせる事となる。1~4は意識した上でデザインをお願いしたい。この構成要素を把握し、更に屋外広告物としての目的を理解し、情報量の再確認が重要である。

今回の審査に対し、事務局として対応して頂いた、沖縄県広告美術協同組合の永吉氏、三枝氏にも感謝を伝えたい。また、九州広告美術業組合連合会会長の波田氏にも、今回の開催や進行に対して適切な助言を頂き心から感謝を伝えたい。私自身、参加できたことを嬉しく思う。

最後に、サインデザインは人々の生活を豊かにし、快適な環境へ導く情報サービスと考える。全九州広告美術に関わる団体や企業に対し、今後の活動に期待したい。



**国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 景観・歴史文化環境整備室**  
**企画専門官 下平 弘和**

どの作品もメッセージ性や表現など素晴らしいと感じました。その中でも見やすさ・分かりやすさや印象、まちなかで表示されるということなども考慮され、全体として結果的に上位の作品が最適なかたちで顕れたものと推察いたします。

今回応募してくださった皆様ありがとうございました。

**(公財) おきなわ女性財団 上與那原**

今回の「あなたはひとりではないよ」というテーマは、コロナ禍で閉塞感のある社会情勢の中、女性や子どもに対する暴力防止への理解と関心を住民に広げるために時宜を得ています。

内閣府の令和3年版「男女共同参画白書」によれば、全国の配偶者暴力相談支援センターとDV相談プラスに寄せられた令和2年度のDV（配偶者暴力）相談件数を合わせると、前年度比で約1.6倍に増加したとのことです。

応募作品は、被害にあっている方へ「どこかに相談するところがあるよ、ひとりで悩まないでね」というメッセージが伝わるように心を尽くした作品ばかりでした。

今回は、コロナ禍のため画像での審査となり、実物を拝見できなかったのがイメージが掴みにくかったのが残念でした。しかし、多くの広告美術に携わっている方々がこのテーマに真摯に向き合って作品を制作して頂いたことに感謝するとともに、当財団としても、なお一層、暴力防止への理解を深めてもらうための啓発活動に努めていく所存でございます。